

## 令和6年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	20	学校名	浜北特別支援学校	記載者	鈴木 真一
------	----	-----	----------	-----	-------

## 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	<b>個性を生かし確かな成長を感じられる教育活動を進める。</b>	<p>「教育課程の押さえ」を踏まえ、学校全体の調和を図り、学部間／学年間の系統性を実現する教育課程が編成できたと考える教員 100%</p> <p>児童生徒の発達段階を把握し、学習によって身に付けた力を評価規準／基準に沿って適切に評価できる教員 100%</p> <p>児童生徒が I C T を活用して自ら学習に取り組むことができたと考える教員 100%</p>	A	A	<p>○各々の児童生徒の持つ各特徴を把握し、適応する方策や指導方法を選択し、教育活動を進めているように思われる。</p> <p>○高等部生徒2人と担当の先生が「みどり市」を広報するために、回覧用チラシを中瀬コミュニティセンターに持ってきてくれました。ともすると教員、生徒の学校関係者だけでみどり市の企画、準備が進み、当日を迎えるがちですが、今回のように学校を一歩出て、普段、接することのない地域住民と会い、みどり市の宣伝をすることは生徒にとって貴重な体験になったと思います。</p> <p>○作業学習の一環としてさらに内容充実を図ろうとするならば、生徒に中瀬コミュニティセンターの位置を地図で調べさせ、伝える内容を考えさせるなど、様々な発展形が考えられ、それは無限です。そこまでの時間が取れない事情があろうかと思いますが、教員主導で事が運び、生徒が支持を受けて行動するだけでは生きる力の獲得は限定的だと考えます。このことは、「ア」「イ」「ウ」「オ」にも共通する課題だと感じています。多忙の中、どこに力点を置いて指導に当たるのかという吟味をお願いしたいと思います。</p> <p>○経験や赴任期間の短い先生の支援体制や、教育や情報共有のツール整備が出来ると良いと感じます。</p> <p>○中期的な取組みは、ステップや現在位置が分かると理解が深まります。</p> <p>○昨年と変えた部分を結果や課題を分析頂き、来期目標に活かせると良いと思います。</p> <p>○先生方の教育活動は、一般的な教科書ではなく、児童にあった年間指導計画等を作成、修正し指導していくことは、大変だと思いました。お疲れ様です。</p> <p>○教職の皆さんのが生徒児童を語るときの表情・口調がいつも愛に溢れていてこちらまで嬉しくなります。</p>

様式第5号

イ	<p>具体的な将来像をより明確にした地域で生きる力を培う。</p> <p>自立活動の区分により児童生徒の実態を把握し、個別の教育支援計画の立案と評価に生かすことができた教員 100%</p> <p>キャリアパスポートで設定した目標を達成できた児童生徒 100%</p> <p>他学部との系統性や接続を踏まえて目標設定し、指導できた教員 100%</p>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「地域（社会）で生きる」ことを大前提とするならば、学校での自立活動指導が重要となるが、これを重視した教育活動を実践している。</li> <li>○生徒ひとり一人に先生方が向き合い、自立や成長への指導や寄り添う姿に溢れ、生徒が信頼と安心感を持って学べる環境があり、大変素晴らしい事と感動しています。</li> <li>○協議会の場でも申しましたが、生徒が主体となってネット販売をしたり、SNSとの上手な付き合い方を学べたりしたら良いかと感じました。</li> </ul>
ウ	<p>お互いが人を大切にして、笑顔に満ち溢れた学校生活を実現する。</p> <p>相手を意識して自ら笑顔で挨拶ができた児童生徒、教員 100%</p> <p>重大ないじめ 0</p> <p>居心地の良い学習集団を目指し主体的に取り組むことができた児童生徒 100%</p> <p>学校は楽しい、学校に行きたいなど学校が居場所になっていると答える児童生徒 100%</p>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校集団に最も大切な「相手を意識して自ら笑顔」、「笑顔に満ち溢れた学校生活」が具体的にできているように思われる。</li> <li>○校内見学では、元気で明るい生徒を多く見かけ、作業学習の製品製作では、生徒同士で教えたり助け合ったりする場面があり、学校の風土や雰囲気として感じ取る事ができます。</li> <li>○学校に行った際に児童からあいさつしてもらうことが多くありました。</li> <li>○いつも元気な挨拶をいただいております。</li> </ul>
エ	<p>明確で実際的な危機管理・安全体制を整備する。</p> <p>危機管理マニュアルを活用し、主体的に行動できた教職員 100%</p>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常的に起こってくる危機に備える危機管理も、大災害に備える危機管理も、用意周到であるように思われる。</li> <li>○福祉現場でも課題となっていますが、大規模災害発生の役割分担は様々な状況を想定して考えられると良いと思います。</li> </ul>

様式第5号

	<p>医療的ケアを含むヒヤリハットの活用による重大な事故0</p> <p>自分の命や健康を自分で守るために取組ができた児童生徒 100%</p> <p>通学途上の事故0</p>			<p>○避難訓練と合わせて、本部訓練を行う良いと思います。災害発生から刻々と変化する被災や混乱の想定を置き、本部役員がタイムライン上で判断や指揮を執る実践的な訓練です。</p> <p>○発災後の BCP 帰宅困難児童&amp;スタッフ用の数日間の備えや、引き続く福祉避難所設営の時期（1週間と言わず数日が望ましいかと）などもまたいつか拝見したいです。</p>
才	<p>地域等とネットワークでつながり、共生社会の実現を目指す。</p> <p>地域等の「人・もの・こと」とつながる取組を実現した学年／学部／分掌 100%</p> <p>けやき祭（学習発表会）の再開</p> <p>双方の成長を促した交流活動ができたと考える教員 100%</p> <p>児童生徒の支援ニーズを的確に把握し、課題解決に向けて関係機関と連携できたと考える教員 100%</p>	A	A	<p>○共生社会を実現しようという基本姿勢で地域と連携しようとしている。特に本年度はけやき祭の復活等、脱コロナ社会の動きがあったことは大きく評価してよいと思う。</p> <p>○共生社会の実現を目指すために学校間交流は大切な時間だと思います。ぜひ続けてください。</p> <p>○地域の大人と接する機会が、生徒の社会性につながり、本校の特徴になっています。</p> <p>○報告内容に保護者の姿が見えないため、保護者に関わりや参加しやすい地域との活動について、意見を頂いては如何でしょうか。</p> <p>○けやき祭の開催は、良かったです。また、地域とのつながりも非常にありました。</p> <p>○美術活動での交流、皆さん楽しんでいる様子も写真で見せていただきありがとうございました。</p>
力	<p>業務上の役割を果たし、貢献するとともに、業務の効率化を図る。</p> <p>自信と根拠を持って業務に取り組むことができた教員 100%</p> <p>所属部署内／所属部署間が協働することで、本校で働くことができ良かったと感</p>	A	A	<p>○「本校に所属できてよかった」と感じる教職員を増やすことが、学校全体の発展、ひいては児童生徒全員の満足感につながることと思う。</p> <p>○県教育委員会がA Iを使った「個別の指導計画」の作成に予算を付けたと報じられました。今後、どのような成果が出るのか楽しみです。教員の仕事の1丁目1番地であるこれらの仕事でさえも、機械がサポートしてくれる時代になったかと、感慨深くこの記事を読みました。教員の働き方改革に聖域を設けてはいけないと改めて感じました。</p> <p>○福祉の立場から、夏休み期間の保護者の見学者は増えたと感じています。卒業後の不安や自身で探</p>

様式第5号

	じる教職員 100%			す負担感の声も聞く為、学校と福祉現場の連携により和らげられる方法を相談していけると良いと思います。 ○働き方改革は道半ばだと思いますが継続的に教職員間のコミュニケーションを大切に進めてください。 ○働き方や業務の改革は、先生の自主性や意識と共に、トップダウンが必要と感じます。何に時間や負担がどの位かかり、どの位減らすのか、テーマや目標を設定する事や、ペーパーレス化や印鑑レス化等に取組まれても良いかと思います。 ○業務の効率化は、業務を整理し、工夫して取り組んだことは、素晴らしいと思いました。 ○先生方のご尽力、献身には感謝しかありません。何卒ご自愛を。
	不祥事 0			
	年間時間外勤務360時間以内 100%			

(その他)

- 本年度の浜北特支の変化の大切な一つに「学校全体が明るくなった」ことが挙げられる。これは、全ての「取組目標」、「成果目標」を達成できていることの説明の一つであると思う。
- 学校と保護者では認識している「地域」が異なり、少なくとも3種類の地域（学校がある中瀬四区、浜北特別支援学校の学区エリア、児童生徒が居住する地区）の定義があると考えられるため、評価の際には注意したい。
- 日ごろ限られた時間の中で、授業の準備、分掌事務の仕事、保護者への対応、対外的な折衝など、先生方が大変な日々を過ごしておられることに対し、敬意を表します。開校から15年が経過し、当時の中瀬4区民が抱いていた浜北特別支援学校に対する思いが薄れてきているのかなと感じることがあります。時間の経過を考えれば、それは当然のことです。中瀬4区自治会では4区にある唯一の学校を、ケヤキの会の皆さんと一緒に、地に足を着け地道に応援していきたいと思っています。今後とも児童生徒のために互いに力を合わせていきましょう。
- 学校も企業も、経営資源を活用して成果を高める点は変わりなく、選択と集中が必要と感じます。環境変化やステークホルダーの期待に対応する、重点課題や新たな取組みを進めるためには一方で止める事を決める事も必要となり、止める事はリーダーでなくては決める事ができません。例えると、古い制度・ルール・帳票・システム・行事運営などのやり方に縛られて、手間や負担を掛けてやり方を守る事が重要視され、業務の効率や改善を阻害している事があります。こうした古いやる事を止める、又は変える時に、企業ではオフィス環境のアプリケーションを導入し、コミュニケーションやデータ共有、スケジュール管理や申請手続き等、業務効率化を図っています。ご承知の事を失礼かと存知ましたが、紹介させて頂きました。
- 福祉避難所について、市と連携をとって行っていただくところですので、しっかり担当部署とのつながりが持てるよう調整しますので、少しお待ちください。